

Principal Correspondence

「幸福ってなんでしょう？～職業選択～」

私が教育にかかわっている立場から幸せに思う条件とは？

①家庭 ②健康 ③良き友人 ④やりがいのある仕事 ⑤いくばくかのお金 の五つです。
あくまで個人の意見ですからご了承ください。

この中でも教育の大きな意味は子どもが自立できるように
(平たく言えば自分で稼いで社会の世話にならず生きていける
社会人)なることで、「職業選択」が大きな目標です。

将来、職業について稼がねば食べられませんし、人生の 40 年
以上を占める職業人生の中で「ただお金のために働く」とか
「仕事はつらいだけ」という選択は幸せではありません。
「大変だけど人の役にたっている」とか「やりがいがある」とい
う選択をしてもらいたいのです。



職業を選択するには、自分は何が好きで、何が得意かを見つけることが大事で、その為には
言語、数学、音楽、アート、科学、自然体験、文化体験、運動体験、社会体験(人間関係・リーダーシ
ップなど)を経験して自分の中にピンとくる遺伝子を目覚めさせる必要があります(筑波大学
名誉教授 村上和雄先生の講演より)。さらに、その職業に就く能力(つまり学力)を身につ
けなければなりません。

おおむね高校生のうちに進路が決まり、モチベーションが高まれば大学選択も、あるいは専門
学校で(手に職の)マイスターを目指すのも容易になります。

その後何回か選択が変わることもあるでしょう。欧米ではよく大学に入りなおして何歳から
でもチャレンジしています。これが学校の意義です。特に幼少期の体験は大事だと思います。

最後に、「好きなだけ」では職業に結びつきません。ギターが好きだがプロにはなれないのと同
じです。「得意なこと」も探しましょう。「得意なこと」は比較的周りに対して優位に立つの
で、他から認められる事が多いため、大体「好きなこと」と一致するものです。



夏休みは、夏でしかできない体験をい
っぱいして元気に学校に戻ってきてく
ださい。



Principal Correspondence

夏は創造性を高めるチャンス

「創造性」とはよく聞く言葉ですが、この能力こそ、これからの21世紀に求められる能力です。OECDの言う21世紀型学力といわれるものです。

一般的に、「問題解決」……というあの手この手で課題をクリアする姿が目につくことでしょう。しかし、実は「創造性」にはその問題解決の前に、実に重要な「問題発見」というプロセスがあります。「何が問題か」を発見する能力です。

20世紀までの教育では、学校でただ「問題」が与えられ、生徒はそれを解くことばかりを学び、「問題」そのものを設定するという授業はほとんどありませんでした。方程式を暗記し、課題を解くことが「学力」と考えられていました。もちろんそれはそれで大事な基礎ですが、高度に発達した情報社会では、それではもう充分ではないということです。

普通、人がある事象を見て「これは問題だ。」と気づくのは、それまで自分が持っていた価値体系と矛盾する事象に出会うときとされています。言い換えると、様々な生活体験を豊富に積んで、感性の高い人に育てていくことが問題発見能力を高めます。悪い表現ですが、感性の鈍い人は問題を問題と気づく能力が低いのです。

よって、夏休みこそいろいろな学校外の体験をするチャンス！
実はここで感性と、学力が結びつくのです。

「環境」「温暖化」「ごみのリサイクル」「開発途上国の子どもたち」「高齢化」「福祉」「ノーマライゼーション」「健康」「公害」等々、子どもは子どもなりの感性で気づく課題があります。その情報をITを使って集め、分析し、仮説を考え、検証し、アイデアを乗せるといったことが年齢に応じてできるようにすることが大切です。この訓練が「創造」という過程です。

繰り返しになりますが、もちろんそれを支えるには漢字や、計算の基礎学力の定着は大前提です。なぜなら文科省はこれを省いて、21世紀型学力を伸ばそうと、かつて「ゆとり」の時間を作って、学力低下を招き失敗したのです。